

<報告>

病気・障がいのある子どもとの乳幼児期からの地域共生にかかわる教育支援に関する研究

Research on Educational Support Related to Community Symbiosis from Early Childhood for Children with Illness and Disabilities

山本 智子

YAMAMOTO Tomoko

本研究では、病気・障がいのある乳幼児からの地域共生にかかわる教育支援に関して実践にかかわる福祉・心理・保健医療にわたる専門職と連携・協働した成果をとりまとめて出版した。まず、筆者が分担した教育に関して、活動および参加、ならびに、共生社会およびインクルージョン（包摂）にかかわる理念をふまえ、歴史および制度の動向や特性を挙げた。そのうえで、子どもの理解および教育の内容やその方法、教育の実際や、家庭および地域との連携にかかわる今日の特性を示した。次に、福祉に関して、保育所を中心とする実践を基に、新型コロナウイルス感染症感染拡大下での対応を含めた、子どもおよび子育て支援の内容および方法と課題を指摘した。続いて、心理に関して、児童発達支援センターを中心とする実践を基に、乳幼児からの適切な療育を通じた子どもおよび子育て支援の内容および方法と課題を指摘した。最後に、保健医療に関して、訪問看護ステーションを中心とする実践を基に、医療的ケアを必要とする子どもの乳幼児からの子どもおよび子育て支援の内容および方法と課題を指摘した。

キーワード：子ども、病気、障がい、乳幼児期、地域共生

目的：

本研究の目的は、福祉、心理および保健医療にわたる専門職による実践に基づいた保育・教育にかかわる検討を通して、病気・障がいのある子どもとの乳幼児期からの地域共生およびインクルージョンを発展させることにある。

方法：

本研究では、文献および先行研究、ならびに、福祉、心理および保健医療にわたる専門職による実践に基づいて、病気・障がいのある子どもとの乳幼児期からの地域共生およびインクルージョンを発展させるための教育・保育の内容や方法に関して検討した。

結果および考察：

本研究では、第一に、病気・障がいのある子どもとの保育・教育にかかわる理念として、活動および参加、共生社会や、インクルージョン等に関して、制度や支援、その歴史と今日までの展開、そして、今日の教育の基本等について確認した。続いて、第二に、病気や障がいおよび病気や障がいのある子どもの理解に関して、視覚障がい、聴覚障がい、言語障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱・身体虚弱、発達障がい、情緒障がいや、重複障がいにわたって、その理解や支援にかかわる内容、留意点等を挙げた。そのうえで、第三に、教育の実際に関して示し、計画、展開、評価におよぶ過程と、方法、子どもたちや、職員等の施設内の社会的関係をふまえた検討を含むこととした。さらに、第四に、家庭および地域との関係に関して検討することにより、乳幼児期から地域共生、インクルージョンをより発展させることを促進することを心掛けた。

加えて、本研究では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や、2021年に施行された医療的ケア児およびその家族に対する支援に関する法律（医療的ケア児支援法）の施行等といった新しい動向の影響による今日的な課題

をふまえて検討を重ねた。

本研究では、保育所、児童発達支援センターに代表される療育施設、訪問看護施設において教育および支援を実践される専門職の先生方により実践にかかわる課題等を指摘していただくことを通して、探究を深めることができたものと考察される。また、検討にあたって、根拠に基づき、実践との関係から探究するために、保育所の保育者でもある園長先生、療育施設の公認心理師、訪問看護施設の看護師長や、学校保健等を専門とする医師といった専門職から学際的かつ実際的な知見を得られたことを貴重な意義として加えておきたい。

本研究では、理論や実践に関して、包括的および統合的に理解し、教育することを重点的に検討することを試みた。支援の過程では、ICT（情報通信技術）の活用や、医療的ケア児者等を包摂し住民を主体とする地域福祉の推進等といった諸課題が見出された。これらの課題については、今後さらに継続して取り組みを進めたいと考えている。第一に、ICTの活用に関して、医療的ケア児者の地域共生を発展させるために、教育および学習支援をはじめ、発声および表現、遊びやレクリエーションの他、人や社会とのつながり、さらに、発信や、人々や社会を豊かにする支援にかかわる検討に取り組みつつある。そして、第二に、医療的ケア児者を包摂した住民主体の地域福祉を推進するために、地域包括支援、コーディネート支援や、相談支援、また、これらにかかわる資源の開発や、共生社会に加え、持続可能な社会や、ポジティブ・ウェルネスの実現に関する検討をあわせて進めつつあるところである。これらの成果についてもとりまとめたうえで公開する見通しである。

著書：

山本智子編著『実践にかかわる専門職と学び考える 障害児保育・教育』北樹出版 2022.

この研究は、2021年度国立音楽大学個人研究費（特別支給）の助成を受けました。